



平成 26 年度 (第 44 回) 九州女子選手権競技

競技報告 (2014/5/20-21)

写真と記事 : M. Kikutake

15 歳、熊本国府高 1 年

田中瑞希 (グランドチャンピオン) が初優勝

熊本県玉名市の玉名カントリークラブ (6399 ヤ、パー72) で行われ、通算 3 アンダー、141 で熊本国府高 1 年、15 歳の田中瑞希 (グランドチャンピオン) が初優勝した。田中は中学 (熊本・桜木中) 2 年で制した九州ジュニア選手権 12~14 歳の部以来、連盟競技 2 勝目。

田中は初日、終日降り続いた雨の中でのラウンドで 5 バーディー、3 ボギーの 70 で回り単独トップに。しかし、1 打差の 2 位に先の女子プロツアー、KKT 杯バンテリン・レディースでアマチュアながらツアー最年少優勝を飾った鹿児島高 1 年、勝みなみ (鹿児島高牧)、さらに 1 打差の 3 位に福岡・沖学園高 3 年、井上沙紀 (筑紫ヶ丘) ら実力者が控え、予断を許さない展開となった。

通算 3 アンダーの 141

田中、勝に 5 打差の完勝

2 日目の決勝ラウンドは 12 オーバー、84 の 71 位タイまでの 85 人が進出。前日の雨も上がり好条件での戦いとなった。

勝負は最終組の 3 人が中心となった。ところが、逆転を期した勝が 1 番 OB でダブルボギー、2 番ボギーとする波乱のスタート。田中もボギースタートだったものの 4 番バーディーですかさず取り返した。勝はその後 5 番から 3 連続バーディーを奪い、調子を取り戻したかに見えたが、後半は 1 バーディ、2 ボギー、1 ダブルボギーと冴えず、4 バーディー、3 ボギーとスコアを一つ伸ばしてこの日のベストスコア、唯一のアンダーパー 71 で回った田中が結局、2 位の勝に 5 打差をつけて逃げ切った。

3 位には通算 6 オーバー、150 で井上と沖学園高 2 年、三ヶ島かな (茜)、前年 14 歳で優勝した興南高 1 年、新垣比菜 (カヌチャ) の 3 人が入った。勝とともに JGA (日本ゴルフ協会) のナショナルチームメンバー、沖学園高 3 年、篠原真里亜 (湯布院) は通算 8 オーバーの 8 位タイだった。

この試合の結果、日本女子アマチュア選手権 (6 月 24 日から、茨城県大洗 GC) には 23 位タイまでの 24 人と、25 位タイの 4 人の中から成績上位者の 3 人、計 27 人 (ナショナルチームメンバーの勝みなみ、篠原真里亜を含む) が出場権を得た。





TV 8社、新聞・通信 10社雑誌 2社

異例の大取材団

競技には9歳の小学4年生から67歳までの182人がエントリー(うち欠場5人)。しかし、主力は中学、高校のジュニア勢だった。なによりも、プロの試合を制したばかりの勝みなみが出場するとあってマスコミの注目度は高く、東京、大阪のテレビ、スポーツ紙などからも取材申請され、最終的に

テレビ8社、新聞・通信社10社、雑誌2社のざっと100人の取材が殺到した。

九州ゴルフ連盟(GUK)では、事前に取材申請を受け付けた段階で異例の「取材にあたってのお願い」を各社に要請する一方、予選・決勝を通じて勝の組に職員を配置してトラブル防止に努めたが、混乱なく終了した。

田中瑞希 強豪勢を倒して九州女子の頂点に

カーンサイド

「まさか優勝できるなんて思ってもいなかった。まだ実感ありません」

表彰式での優勝者スピーチ、その後に続いた報道陣の記者会見。田中瑞希は「今の気持ちは?、と問われ紅潮させた顔でこう口にした。

戦前の予想からいえば、ダークホースでもあった。なにしろ、4月の女子プロツアーで優勝した勝みなみがいる。昨年の九州女子を制した新垣比菜もいる。周囲の耳目はどうしてもそっちに行った。

しかし、「正直、負けたくないとは思っていましたが」とも吐露した。

勝に1打差の首位でスタートした最終日。勝がいきなりダボ、ボギーと2ホールで3打落とす出だした。対して田中は緊張のあまりか、1番グリーン周りで、自分でも「珍しい」というシャンクでボギースタート。しかし、その後は建て直した。勝が5番から3連続バーディーと迫ってきても、慌てるでもなく淡々としたゴルフを続けた。

後半はボギーとバーディーが続く出入りの激しいゴルフになったが、勝の方もスコアを乱し、「気持ち的にも落ち着いてきて、勝さんのことがあまり気にならなかった」と言う。結果的には最終組の3人の中では一番飛んでいたドライバースhootと、「2日間ともバタがよかった」と崩れないゴルフで逃げ切った格好だ。

中2の九州ジュニアで優勝。しかし、その年は、勝は九州女子選手権を史上最年少の13歳で制し、翌年には新垣が九州を14歳で取った。平成10年(1998年)生まれの同級生。マスコミ的にいえば「花のトリオ」。一方の田中は、これまでの最高位が14位タイ(42回大会)と成績は今一つパツとしないものだった。

それが今回は、初日から首位に立っての頂点だ。「毎年、この時期は調子が悪くて、夏のジュニアのころによくなっていた」と苦笑する。コーチが変わり、「頭が下がる癖や腰の使い方などいろいろ指摘され」それが徐々に実を結び始めたのか。「ボールにも力が伝わり、飛ぶようになった」とも口にした。

現在女子プロ界で活躍する歴代優勝者の名前が刻まれた優勝カップを見て、「凄いことですよ」と言う。いわば、「プロへの登竜門、ともいわれる九州女子選手権を制し、真価を問われるのはこれから。「(初めての日本女子アマは)緊張するとは思うけど、自分の持ち味を生かしたゴルフができれば」と答えてくれた。

勝みなみ選手の話 やっぱ緊張して試合に臨んだ。(2位の結果には)自分の今の実力かな。まだまだ練習足りないな、とも思った。



ホールアウト後、チームメートらの祝福のシャワーを浴びる田中瑞希